

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学
所 属 保健医療学部看護学科
名 前 三ツ井圭子
作成日 2025年5月28日

1. 教育の責任

・看護基礎ゼミ 必修 1年

授業の受け方、レポートの書き方の講義・演習、教務委員会として定期試験の受け方のオリエンテーション、国家試験対策委員会として学生の国家試験対策委員と共に模擬試験やその後の学修フォローアップを企画・実施を行った。

・看護学概論 必修 1年 メタパラダイムの「健康」の単元を2コマ担当

・ナーシングスキル学Ⅰ 必修 1年

日常生活援助のガイダンス、環境、食事、統合演習を担当

・ヘルスアセスメント学Ⅰ 必修 1年

ヘルスアセスメントの意義、フィジカルイグザミネーションの基礎、ランドマーク(位置)の同定、腹部のアセスメントを担当

・ナーシングプロセスⅠ 必修 2年

事例作成、看護過程の展開全般

・看護基盤実習Ⅰ 必修 1年

チームビルディング、挨拶・接遇の演習担当、病院での実習指導

・看護基盤実習Ⅱ 必修 2年

・統合実習 必修 4年

・1年チューター

・教務委員会(定期試験、時間割、1年生未修得科目管理)

・国家試験対策委員会(1年担当、4年生模擬試験監督など)

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

他人の価値観や物事の捉え方は、自分と同じではないことを念頭に置いて、学生に関わりたいと思う。大学1年生なりの経験から築いていった価値観を尊重し、一人の初々しい社会人として扱いたい。そのために、学生の年代の一般的な価値観について理解し、

看護系大学で当たり前としている常識について一般的な常識であるか確認し、学生に不合理なことを要求していないか確認し、学生との関わりや授業・演習の教育活動についてリフレクションを行い、自分の対応について自問をする時間を取るようになっている。所謂、一人反省会を開くことで、自分の教育観を捉え直し、かつ、つぎの対応について策を練ることを行っている。この捉え直しによって、若い学生に十分に対応するように私自身が柔軟にアップデートできる存在でありたいと思っている。

大学生の時代は、高校時代よりも出会う人や行動する範囲も広がり、楽しいことも辛いこと、様々な体験をすることで人の機微を学んでいく大事な時期である。目的をもって看護を学ぶ学生だからこそ、学生時代に大いに人としての成長につながる豊かな経験をしてほしいと期待している。

2) 理念をもつに至った背景

理念を持つに至る背景には、つぎの2つが根拠となっている。

一つ目として、自分自身は、厳しい規則や規制で縛られることはないが、恩師の先生方から自分自身が選んで進学した学科の特徴をよく考え、自学自習の精神でプライドをもって勉強しなさいと折に触れ指導されていました。先生方からの期待を感じながら学生生活を送ることで、モチベーションが低下することなく、のびのびと大学生活を過ごせました。

二つ目として、前期に関わった看護基盤実習Ⅰの1年生は、大学内にいる時には自由な格好をしていた。しかし、いざ、実習に向かう時期には、学生の格好が一変していた。実習ガイダンスで受けた「Ⅶ. 実習に臨む基本的姿勢・態度 5. 実習に臨む際のマナー」¹⁾にある服装規定に応じた身だしなみとなっていた。さらに、臨地実習前の学内実習において、学生同士で「臨地実習に向けて看護学生として自覚ある学修行動をとるために大事であること」²⁾をディスカッションした経緯があった。学生自身で必要性を感じ、成長を期待されることが伝わる機会があると、学生は自ずとその行動が取れるというのを認識された場面でした。とくに、学生が行動したことが形になろうとしている時は、教員や指導者からの促しが無くても、学生自ら進んで学修を進められるため、見守る教育姿勢が大事になると認識しました。

3. 教育の方法・戦略

日々の学修は、「学生が自分の希望している将来のために学修している」を忘れないように関わることを大切にしている。また、高校の時代の学習のように、一夜漬けで知識を詰め込み、試験が終わると忘れてしまうように、使わない知識にしないようにすることと、知識が他の内容に応用できることを、学生に意識してもらうよう授業のデザインを考えている。

1年後期に開講される〈ナーシングスキル学Ⅰ〉を例に説明する。

1) 科目デザイン

基盤となる感染予防の技術、ボディメカニクスを最初に学修し、それを応用しながら移動・移送、環境整備、清潔の援助、食事の援助、排泄の援助と単元を進めた。自分の体の動きから他人(患者)の体を動かすことへ、対象が物から人へ、大きな動きから精密な動きへ、さらにコミュニケーションによる対象者からの協力の獲得、場面ごとの観察を増やすといった段階的に難易度を高めるデザインにした。

科目の最後には、統合演習と名前を付けた、今まで習ったことを使って事例の生活上の問題を解決する援助を考える単元を用意した。一人の事例について学生グループで、どのような人なのか、何が一人でできて、どこを援助する必要があるのか、どんなことに注意すると良いかを考えてもらった。事例の生活上の問題となる場面を6つ用意した。2つ以上の援助を組み合わせないと問題解決ができないといった場面を作成した。

学生はグループごとに問題解決をする援助項目を考え、援助の目的と目的を達成するための目標設定、および援助の内容・流れ・観察項目を考える演習内容とし、実際に演習室で患者役を相手に援助を実施した。実施した援助に対して、他のグループから意見をもらい、援助の振り返りの参考とした。

2) 講義内容の理解の促し

事前学修の内容を科目スタート時に提示し、各単元を受講する前に事前学修をしてもらい、事前学修の内容から講義の理解に必要な用語や知識を確認する小テスト実施した。小テストは1問1点、3問出題のため合計3点になる。学生自身で直ぐに正誤が確認できるようになっている。そのため、講義内で小テスト問題の解説が含まれるよう展開し、正しい知識とその根拠を学べるようにした。

3) 知識の応用

単元内での知識同士の関連、単元をまたいで知識が活用されていくものは、学生意識できるように、どこで使った知識かを明確にして、どんなつながりがあるかを説明していた。

4) 振り返りからの知識・技術・態度の強化

やりっぱなしではなく、振り返りを行うことで、専門職の技術として自分の強みと強化すべき点を明確にしてもらった。また、助言や気づきを明文化することで、学修の定着化をねらった。

4. 学習成果

次のような学生からの意見があった。

- ・事前学修の課題と小テストは、講義内で初めて耳にする言葉や内容でないため、講義中内容に集中できた。
- ・統合演習は、援助を考えるのが難しかったが、今までの学修の復習ができた。
- ・統合演習では、動画を見て実際の患者さんの表情や性格の一部がわかったので、援助を考える際の留意点にできた。

5. 改善のための努力

- ・事前学修の内容をもっと限定し、講義内容の理解に必要となる知識に限定していき、確実に学生が理解できるようにする。
- ・統合演習の援助計画を実践しながら修正・追加する時間を、十分に確保し、学生がじっくり考えられるようにする。
- ・講義・演習ごとにリアクションを課しているが、一定の学生の提出が悪かった。授業時間内にリアクションを書く時間を確保することで、学修機会を逃さないようにする。

6. 今後の目標

〈長期目標〉

- ・ 1年生の学生数が160名と増加しているため、昨年度の質を維持する。
- ・ 学生の知識・技術・態度を形成する始まりとなる演習であると自覚し、かつ、看護の楽しさを実感してもらえるように、臨床の実際を視野に入れた講義・演習にしたい。
- ・ 授業評価アンケート80%以上の回答率で、評価4.2以上を目指す。

〈短期目標〉

- ・ 8月末までに後期の授業スケジュールと担当教員の役割を決める。
- ・ 9月中旬までに小テストの内容を厳選する。
- ・ 11月までに看護技術に関する調査研究を行う。

【資料】

- 1)2024年度 臨地実習ガイドライン
- 2)2023年度 看護基盤実習Ⅰ 学内実習3日目の資料
- 3)2024年度 ナーシングスキル学Ⅰ スケジュール